

樋高環境大臣政務官の被災地訪問（宮城）の概要について

■日時：平成23年3月20日（日）～3月21日（月）

■場所：宮城県（仙台市、塩竈市、多賀城市等）

■用務：政府災害対策本部会議出席、東内閣府副大臣等との打ち合わせ、東北地方整備局訪問、村井宮城県知事との面談、仙台市長との面談、塩竈市内視察、塩竈市長との面談、利府町中倉廃棄物埋立処分場視察、環境省現地対策本部、多賀城市長との面談、多賀城市内避難所の慰問、仙台空港視察、名取市閑上視察

■概要

1. 現地災害対策本部への出席

- ・東内閣府副大臣、阿久津内閣府政務官、市村国土交通政務官とともに会議に出席し、被災者の生活を取り戻すため、災害廃棄物対策・し尿対策の円滑な推進に向けた関係省庁の連携強化を呼びかけた。



2. 東北地方整備局への訪問

- ・防災対応に不眠不休で従事している局員を激励。
- ・徳山東北地方整備局長より、東北の幹線道である国道四号線から沿岸部への救援ルートを設定する「くしの歯作戦」について説明。
- ・災害廃棄物の処理に向け両省の地方部局において一層連携していく旨を確認。



3. 村井宮城県知事との意見交換

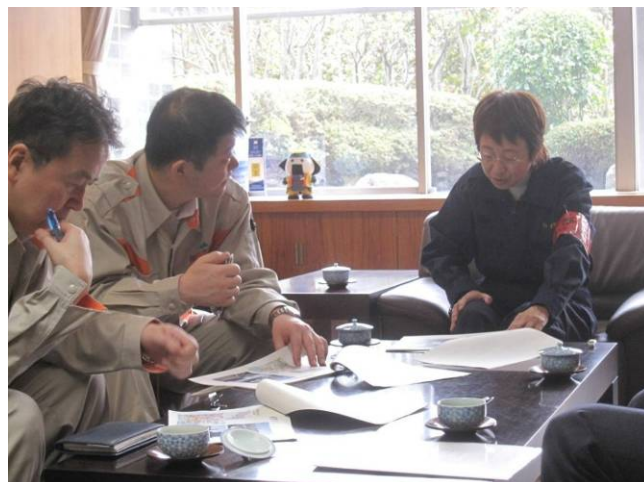
- ・東防災副大臣、市村国交政務官らとともに宮城県知事と意見交換した。
- ・知事からは、燃料不足、ご遺体の扱い、そして災害廃棄物の処理が目下の大きな問題であり、財政措置や自衛隊の応援など国の支援が不可欠である旨が示された。



- ・知事より災害廃棄物の分別・リサイクルはとても無理であるという考えが述べられ、また、ヘドロに覆われた沿岸部では悪臭問題も発生している現状が示された。
- ・県と政府との連携を今後とも強化していく旨が確認された。

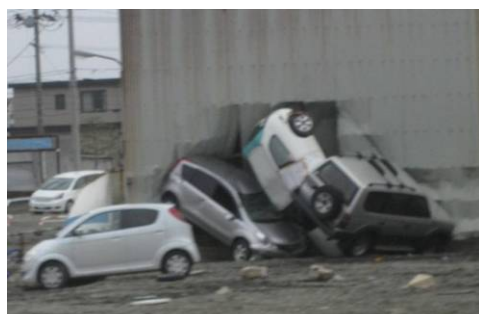
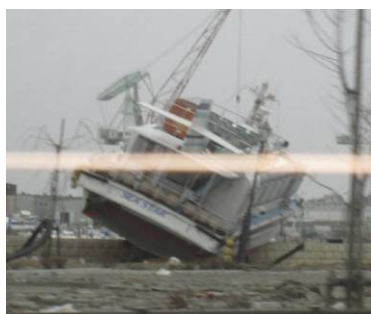
4. 奥山仙台市長との意見交換

- ・奥山市長から、災害対策における最大の障害として、燃料不足と通信基地の破壊による通信不全の二点が示された。
- ・さらに、市のガス局の施設や、下水道の終末処理場が破壊され、完全回復には膨大な費用と時間がかかる見込みである旨の指摘があった。
- ・莫大な量の災害廃棄物については、個別市町村のみでは焼却や埋立ての対応ができず、国による広域的・一元的な処理体制の確立や、国による財政措置が不可欠であるとの認識が示され、環境省のリーダーシップが求められた。
- ・樋高政務官より、仙台市の早期復旧は他地域の活力を回復させる原動力である旨が述べられ、生活の回復に向けて全力を挙げる旨が約束された。



5. 塩竈市の視察

- ・仙台近郊の被災地である塩竈マリーナゲートを訪問し、佐藤塩釜市長から被害の実情を聴取。燃料不足が深刻であり、救急車の燃料を捻出するために消防車から燃料を抜き取ったり、ご遺体の火葬に要する燃料を工面するために避難所の暖房用燃料を節約するなど、厳しい状況を訴えられる。
- ・下水道処理施設が水没し使用できず、焼却施設は現在点検中であるとの報告があった。また、町中をヘドロが覆い、悪臭を放っている旨が訴えられた。



- ・塩竈付近では家々が津波により破壊され、破壊された多数の自動車や船舶などが、市道の路肩に山積みになっていた。



県道 仙台ー塩釜線



塩釜マリーナゲート内

6. 災害廃棄物の仮置場の視察

- ・塩釜市の廃棄物埋立処分場を災害廃棄物の仮置き場として使用している現場を視察。大まかに不燃物と可燃物に分けているものの、不燃物の中での家電を分別することは困難な状況にあるとの説明であった。
- ・現在、1日辺り4トン積みトラック30台分の災害廃棄物が持ち込まれており、直に満杯になるおそれがあり、こうした災害廃棄物の処理方法や新たな仮置き場の確保についての今後の懸念が塩竈市より示された。



宮城県利府町
中倉廃棄物埋立処分場内
災害廃棄物仮置場



7. 環境省現地災害対策本部

- ・東北地方環境事務所において環境省現地対策本部が開かれ、樋高政務官より本部員に対して、日夜の粉骨砕身の奮闘に対して慰労し、被災者の生活を取り戻すため最大限の努力をするよう激励がなされた。
- ・災害廃棄物処理や被災ペットの保護などの分野において、環境省現地対策本部として更に努力を重ねていくことの決意表明がなされた。



8. 阿久津内閣府政務官、市村国土交通政務官との意見交換

- ・阿久津内閣府政務官、市村国土交通政務官と樋高政務官による意見交換が行われ、市中に氾濫する廃自動車が増加し、木材や瓦礫の処理作業が進まないとの問題意識を共有し、廃自動車を一刻も早く一掃することが急務であるという認識で一致。廃自動車の処理方法について事務方で早急に調整することで合意した。

9. 多賀城市の視察

- ・多賀城市役所に菊池市長、石川市議会議員を訪問し、被害の実情の説明を受けた。市域の3割が津波被害を受け多数の被害者を出したため、火葬場の稼働能力が間に合わないという困難に対して国の支援が求められた。
- ・私有地における廃棄物も含めて処理するためには、財産権の問題に関する制度的解決が必要であり、国として早急に結論を出してもらいたい旨の要請があった。
- ・被災者の避難所である多賀城市民ホールを慰問した。被災した方々は冷たいコンクリート上に直接毛布一枚を敷いて生活しており、ストレスによる影響が懸念された。
- ・ペット連れの避難民も見受けられ、避難所におけるペットとの共生の方策を考える示唆となった。



多賀城市市民会館

- ・仮設トイレと汲み取りの状況も視察した。



バキュームカー



国道 45 号 (多賀城市内)

10. 仙台空港周辺地域の視察

- ・津波による大きな被害を受けた仙台空港を訪問し、被害の実情の説明を受けた。発災当日は空港ビルに 1500 人程度が孤立したこと、現在は自衛隊や米軍の支援活動に空港が使われていることなどの説明があった。
- ・仙台空港構内では、無数の廃自動車が空港内に散在・山積し、災害廃棄物の処理の障害になっているとの説明があった。



仙台空港鉄道
仙台空港駅周辺



仙台空港駅

1.1. 名取市閑上（ゆりあげ）地区の視察

- ・仙台近郊で最も被害の著しい地域のひとつである名取川河口部の閑上地区を視察。津波により街区が根こそぎ破壊され尽くし、家屋は破碎され、見渡す限り瓦礫と廃自動車が広がっていた状況は筆舌に尽くしがたいものであった。



(以上)